



三十六計逃げるにしかず

一般的に、人間は身近な人間同士では競い合います。人間の本能です。自分と他人を比べて優劣を付けたがるのです。大抵の場合、自分を過大評価して自分のほうが優れていて競争相手が劣っていると思っています。相手の競争相手もやはり自分のほうが優れていて、相手が劣っていると思っているので、なにかユーモラスな感じがしますね。

不思議なことに、遠い関係の間柄では競争意識は生まれません。例えば、金髪で青い目の外国人に競争意識を抱くことはまれです。ところが、中国の方や韓国の方のように容姿が似ていて地理的にも近いと、国同士の競争意識でいがみあったりします。日本とフランスが競争意識を持って争う事はあまりありません。

容姿、若さ、持ち物、子供の事、あらゆる事柄が競争意識の原因になりますが、自分が劣っているとはなかなか認めたくないものです。認めてしまうと、「負け」ているという事になるからです。でも、どうして「負け」を認めたくないのでしょうか？ 明らかに自分が劣っているのに負けたくない。負けたくないというより相手の方が優れていることを認めたくないのですね。

競争意識が生まれやすい環境といえば学校や職場です。皆さんにも少なからず、競争意識を持ったり、持たれたりして悩んだ時代があったはずですし、今進行中で悩んでいる方もいらっしゃるでしょう。それは、相手からの一方的な攻撃であったり、「あの人にだけは負けたくない」、と一人で相撲を取ったりしている状態であったりしますが、あまり幸せな状態ではないですね。

でも、代々木の杜に勤務する多くの方は、人生の終盤にさしかかった大人です。出来れば平穏な気持ちで日々を過ごしたい、と思っているはずです。過去に、民主党の蓮舫議員が、「なぜ一番でなければいけないんでしょうか？ 二番ではダメなんですか？」と発言して物議をかもしました事がありました。日本のスーパーコンピューターが世界一になるための研究費についての発言だったと記憶していますが、印象に残る発言でした。

私たちも、「どうしてあの人に勝たなければいけないんだろう？ 私はわたして良いじゃないのでは？」と考える事が出来れば、どうでしょうか？ 少しは気が楽になりませんか？

世間をうまくわたるためには、勝つことにこだわるよりも争わないように勤めることが大切です。一見して負けているように見えても、良好な人間関係を築くことが出来れば、それが大切なことです。

だから、争いから逃げるのです。標題の「三十六計逃げるにしかず」は孫子の36の兵法のうちの一つです。戦略なのです。負けること、逃げることは決して恥ずかしいことではないのです。繰り返しますが、人生を幸せに生きるための、優れた戦略なのです。

